



学校だより

令和7年12月発行

立川市立若葉台小学校長 片山 伸哉

〒190-0001 立川市若葉町1-13-1

TEL 042-536-3971 FAX 042-534-6943

東京 2025 デフリンピックから考える

校長 片山 伸哉

冷たい風に冬の訪れを感じる季節となりました。二学期のまとめに向けて、学習や学校生活にも集中して取り組む姿が見られ、子どもたちの成長を頼もしく感じています。また、音楽会に向けての練習も佳境に入り、心に響く歌声や合奏の完成に向け、協力しながら練習に取り組む姿が見られます。

さて、11月15日から26日の12日間に東京 2025 デフリンピックが開催されました。デフ(Deaf)とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。デフリンピックは、聴覚に障がいのあるアスリートのための国際的なスポーツ大会で、長い歴史（第1回大会は1924年にフランスのパリで開催）をもっています。今回は100周年の記念すべき大会で、日本では初めての開催でした。競技ではスターターの合図に光を用いるなど、選手が能力を存分に發揮できるよう、さまざまな工夫がされていました。日本をはじめ、世界の多くのアスリートの活躍を皆さんも報道等を通してご覧いただいたと思います。デフリンピックで活躍する選手の姿から、困難に向き合いながらも前向きに挑戦する勇気や、仲間を大切にする心を学ぶことができると改めて実感しました。

本校にも、多様な個性や背景をもつ児童が在籍し、学校という同じ空間の中で過ごしています。日頃から「自分を大切にするとともに、他者を大切にすること」や「ちがいを認め、互いを尊重する」ことについて子どもたちに伝えています。時に相手を嫌な思いにさせてしまうことや、心無い言葉を伝えてしまい、校長室で話を聞いたり、説諭したりすることもあります。ただ、どの子どもたちも落ち着いて振り返ると、改めなければならないことや謝罪したほうがよいことなど自分自身の言動を見つめ直すことができます。

12月は、一年を振り返り、自分のよいところや成長した点を確かめる大切な時期です。子どもたちには、違いを理解・尊重し合い、だれもが自分らしく頑張れる学校をつくるために、思いやりの心をさらに育んでほしいと願っています。今月もどうぞよろしくお願ひいたします。